

第7回 2020年代の総合物流施策大綱に関する検討会

議事概要

1 日時

令和2年12月22日（火）10:00～11:45

2 場所

三田共用会議所

3 出席委員

根本敏則委員（座長）、矢野裕児委員（座長代理）、池田和幸委員、井本隆之委員、上村多恵子委員、小川博委員、小野塚征志委員、金子千久委員、苦瀬博仁委員、黒木定藏委員、小谷光司委員、坂元誠委員、佐藤清輝委員、佐藤修司委員、宿谷肇委員、高松伸幸委員、田中謙司委員、西成活裕委員、箱守和之委員、兵藤哲朗委員、藤野直明委員、堀尾仁委員、堀切智委員、牧浦真司委員、馬渡雅敏委員、山下太委員

4 議事概要

【委員からの主な意見】

（提言に対する所感等について）

- 人手不足の物流危機、さらにコロナ禍となり、物流業界が厳しい状況の下で策定されたことに意味がある。
- 物流の世界はステークホルダーが多く、様々な主体の思いが複雑に絡み合っており、これをいかに解きほぐしていくかが重要である。そのために、商慣行の見直しや標準化を行い、IT化・機械化、規格化を進め、新たな付加価値を生み出していく、という今後の物流業界に必要な流れをうまく整理できたと思っている。
- 魅力のある産業としての物流業、人材を輩出できる物流業となるべく、大綱の内容を実行していかなければならない。提言に盛り込まれたIoT・AI、ロボティクス、DX、シェアリング、脱炭素といった視点も踏まえて取り組んでいきたい。あらゆる産業の活性化にもつながると思っている。
- 物流DXを御旗として掲げたこと、コロナ禍の状況を好機ととらえ加速させるということを書いたことを評価している。実現に向け、個社でDXに取り組むことに加え、協調領域として関係者が手を携えて全体最適に向けて取り組んでいくことが重要。
- 物流DXと物流標準化はセットで考えなければならず、非定常業務の定常化や、物流現場主導の部分最適からマネジメント主導の全体最適への転換を目指すのが重要。強い思いをもって進めていきたい。
- 持続可能な物流の実現にはDXが必要であり、それを支えるのが各種の標準化である。DXは、産業構造を変え、フィジカルインターネットに繋がるとのシナリオは重要。
- 現行の大綱に比べデジタルの要素が強く打ち出されており、未来志向で革新的なものになった。コロナ禍の現状は制約も多いがチャンスになる。二の足を踏んでいた施策にも果敢に取り組んでもらいたい。
- 中小企業における自動化・機械化について盛り込まれた点を評価している。先進事例の公表や秀でた取組の表彰は中小物流企業のモチベーション向上にもつながる。業界内での理解浸透に努めていきたい。
- 物流はコストととらえられがちであるが、サプライチェーン全体に利益を生むものであるという認識を生み出す足がかりになるのではと期待している。物流業界においてデータ化が進めば、新たな価値創造にもつながる。

- 持続可能な物流の実現が必要であり、そのためには物流 DX やその前提として標準化が必要であることが明確に示された。セミナー等を通じた PR や推進体制への参画も含め、実現に向けて今後も協力していきたい。
- 高度物流人材を日本から輩出していきたい。産業界に対しては高度物流人材の受け入れ体制を整備して行ってほしい。
- 「担い手にやさしい物流」というキーワードを評価。実現のためには責任とコストの所在が異なっている現状を変えることが必要だが、こうした変化は将来の社会的価値に向けた投資だととらえるべき。
- SDGs が目指すべき目標として社会的に認識されてきているのだから、「担い手にやさしい物流」も根付いていけばと思う。
- 大綱に書かれた取組について、「総論賛成、各論賛成」としていかなければならない。そのためには、商慣習や既得権益の見直しを必ず成し遂げなければいけない。
- DX や標準化は「人や環境に配慮した持続可能な物流」を実現するための手段。過剰サービスによりナッシュ均衡に陥っている現状をみんなで変えていかなければならない。
- ダブル連結トラックを活用し、実車率を高めるなどの実証実験を行っているが、個社では超えられない壁もある。産官学をあげて物流効率化、労働力不足改善につなげていきたい。
- 農林水産物・食品の流通について提言に書き込んだことを評価している。農林水産物の産地にもようやく物流に関する危機感が浸透しており、共同輸配送やパレット化等の取組を進めていきたい。
- 地方では高齢化が進み、物流含め様々な社会機能が失われている。提言中でラストワンマイル配送についてしっかり取り上げられた点を評価している。大規模災害に備え重要物流道路拡充など、道路機能を強化していくべき。
- 物流に関する広報の強化について触れている点を評価している。物流の社会的価値をより発信していくべき。
- 貿易を支える物流は今後も重要な役割を担ってくるため、空港、港湾、道路といったインフラの整備を強化していかなければならない。日本は災害多発国でもあるため、インフラ強化を今後も進めていただきたい。

(提言の PR について)

- 業界の関係者に対してメッセージを伝えるだけでなく、今後ビジュアルな情報を加えるなどして、一般の方にもメッセージが伝わるよう工夫をしてほしい。
- 物流関係者であっても大綱を知らない人は多く、今後の PR が重要。また、経営者や一般消費者など、物流関係紙を見ない人々にも危機感が伝わるようにすべき。

(今後の推進体制について)

- 推進体制について書き込まれたことはよかった。提言の内容をいかに具現化していくかが重要になってくる。
- 今後は推進体制の構築が意味を持つ。KPI をどのように設定し、誰が主体となって実行していくのか、また大綱に書かれた事柄がどれだけ実現されたかをチェックしていくことが必要である。

【今後の進め方等】

- 本日議論いただいた提言（案）を検討会提言として公表することとする。

以 上

(文責 事務局)